

多治見市都市再生基礎調査研究会

報告書

平成12年3月

(財)岐阜県産業経済研究センター

(財)岐阜県産業経済研究センターは平成12年4月1日付けをもって(財)岐阜県産業経済振興センターに名称変更されます。

本研究会は、多治見市の都市再生にむけて、行政や市民、商業関係者、専門家などがそれぞれの立場から議論を行い、中長期的な方向づけに資する提言を得ることを目的に開催された。

研究会は、第1回（平成11年9月）から第5回（平成12年3月）まで、5回開催された。

都市再生といえば、まっさきに中心市街地の人口減少や空洞化が浮かぶ。あるいは、その一翼を担ってきた商店街のかかえるさまざまな問題や課題を思い浮かべる。

不確定な要素が多く、先行きの見えにくい時代になったといわれる昨今であるが、この研究会では、中心市街地の問題に限定することなく、議論を深めるという立場で会は進められた。その理由としては、市街地の問題一つをとっても、異なった形成過程を辿った中心部と郊外の関係こそが重要であることや、都市構造の抱える問題、例えば公共交通機関の整備など、中心市街地だけでは解決しない問題が数多くある。多治見市全体として、都市の将来像を見極めることが重要であり、当研究会の都市再生の目的に即したテーマであった。

研究会の議論の進め方は、第1回、第2回に、多治見市の現況について、それぞれの立場から説明がなされた。アメリカや国内の先進事例などを通して、都市再生がなぜ今必要かについての認識を確認した。また、市が事業を進めているオリベストリート整備構想などの説明があり、その上で自由に議論を行った。

第1回、第2回の研究会での自由な意見交換などを整理して、重点的に議論すべき事項を整理した。大きく、段階計画の考え方・ライフスタイル像・団塊の世代のとらえかた・新時代のコア施設とは何か、の4点が抽出された。第3回では多様なライフスタイル像について、集中して議論を重ねた。また、中心部と郊外部のあり方をめぐる議論の重要性が明らかになったため、第4回では、社会コストに関係するそうした諸問題について検討を行った。第5回では、これまでの議論を総合して、多治見市の都市再生にむけて統合的なイメージは何かを議論した。これが、研究会における議論の大きな流れと展開である。

現状がどのような状態であり、何が課題であり、どのような方向に都市再生の具体的なイメージがつくられていくのか、の順に、議論が次第に収斂するよう進められた。議論がなされていく中で、従来、都市再生に関して十分に深められてきたとは必ずしもいえないいくつかの領域が見出された。

1. 都市のイメージについての合意形成

多治見市が都市としてめざす総合的かつ個性的なイメージ。

- 2 . 市街地の拡散（郊外化）に対し、社会コストを負担しているという自覚と意識を市民に理解してもらうことの重要性
- 3 . 高齢化時代に必要とされる福祉、介護などに対応した都市政策のビジョンと中心市街地の果す役割
- 4 . 従来の、商業機能を中心とした中心市街地という固定的イメージの再検討
- 5 . 次世代産業の育成と振興に関わる事項

この5点のそれぞれは、更に広く市民の意見を反映させつつ、多治見市の都市再生という総合的な課題にむけた取り組みが今後も必要とされる。特に十分に考える必要があるのは、つねに基本的なところにまで踏み込むことである。中心市街地の活性化が、なぜ必要かを問う姿勢がたえず原点である。最初から活性化がありき、ではないからである。同じように、都市の中心部が担う役割が何であるかということも決まっているわけではない。

具体的にはしばしば例にあがる、ポケットパークやアーケードのような個別の整備対象についても、それがなぜ必要か、必要とされる役割は何か、その場所が設置されるにふさわしいか、など、絶えず問うことが、都市再生に取り組む際の原点ではないだろうか。

多治見市の都市再生に関わる基本的な問題の所在と、都市再生の将来像をさぐるために活発な議論がなされてきた。研究会の議論の中で出された有意義な意見の中には、相反する部分もいくつかみられた。将来像を描く上で、判断基準の尺度のとらえ方による差異と考えられる。本報告書をまとめるにあたり、都市再生に関係する意見を一つに集約するのではなく、考えを深めるための素材として本報告書を活用頂きたいと考えた。選択肢の形で複数の比較案を提示している部分があるのは、そのためである。

目次

本報告書の主眼と位置づけ

議論の前提条件及び重要意見

- 1 前提条件等
- 2 都市のイメージについての合意形成
- 3 市街地の拡散（郊外化）に関する事項
- 4 商業機能と中心市街地

多治見市都市再生へ統一イメージと3つの視点・

「意識の高い市民が自ら作り上げる都市 多治見」

3つの視点の特徴

- 1 「社会的コスト意識をもつ市民が作りあげる都市 - 多治見」
- 2 「リタイヤ層・高齢者が暮らしやすい中心市街地の再生」
- 3 「サステイナブルな価値観に裏打ちされた環境共生型都市」

既成市街地と郊外住宅地を選択する眼

既成市街地と郊外のどちらが社会的コスト低減につながるか

選択肢 A

選択肢 B

リタイヤ層や高齢者が暮らしやすいと感じる市街地の形成

集客と生活環境改善のバランスを図る都市再生にむけて

資料編

各回 議事要旨

- | | |
|-------|------|
| 第1回会議 | 議事要旨 |
| 第2回会議 | 議事要旨 |
| 第3回会議 | 議事要旨 |
| 第4回会議 | 議事要旨 |
| 第5回会議 | 議事要旨 |